翔

NO.76

'89 APRIL

Butterfly

Beetle

Insect

百万石蝶談会

金沢市郊外のアゲハチョウ類の終息日について

指田春喜

成虫越冬の一部の蝶類を除くと北陸地方では、９月下旬から10月上旬になると蝶の多くは急にその姿を消してしまう。モンキアゲハは南方系のアゲハチョウであるにもかかわらず、日本各地での終息記録はアゲハチョウ類の中でも最も遅いことが知られている。ちなみに金沢市のそれは10月中旬(大塚、指田)であり、長崎では11月５日(溝上)が記録されている。

筆者は今年10月16日、金沢市郊外の卯辰山において、多数のモンキアゲハとともにカラスアゲハ、キアゲハを目撃したので、それらの終息記録として報告する。

《目撃データ》　1988年10月16日午前11時頃　金沢市奥卯辰山健民公園

モンキアゲハ	多数
カラスアゲハ	1ex
キアゲハ	1ex

数日前から日本各地の山で初冠雪の便りが聞かれるなど、全国的に11月中旬なみの寒い日が続いたが、当日は朝から快晴となり、まさに穏やかな秋の行楽日和という日であった。

最高気温：21.5℃　　最低気温：13.0℃(NHK午後７時前の天気予報より)

公園内の花壇には、いずれもモンキアゲハが２～３頭ずつ吸蜜に来ており、とくに駐車場脇の広さ10×20m程の花壇には、９頭のモンキアゲハに混ざり、汚損が著しいカラスアゲハ、キアゲハの吸蜜しているのも観察された。

翌日から気圧の谷の接近により、西日本から天気は崩れ、10月17日の金沢はくもり。しかし、この時期に合計で20～30頭程のモンキアゲハが確認できたことは驚きであり、まだこの先しばらくは生きつづけたことは充分予想され、実質モンキアゲハの終息記録はさらに更新されたものと思われる。

また、これまではっきりした金沢市近郊の終息記録を寡聞にして私は知らないが、カラスアゲハ、キアゲハが10月中旬に目撃できたことは注目に値するものである。

《参考文献》

1．大塚　勲(1987)：金沢市兼六園で10月10日モンキアゲハを目撃
昆虫と自然　13(5)，28

2．指田春喜(1986)：石川県におけるモンキアゲハの終息記録
多摩虫　9(19)，20

3．溝上誠司(1986)：晩秋にモンキアゲハを目撃
佐賀むし通信　(96)，465

《さしだ はるき　〒920 金沢市材木町８－３》

宝達山のアサギマダラ

松井正人

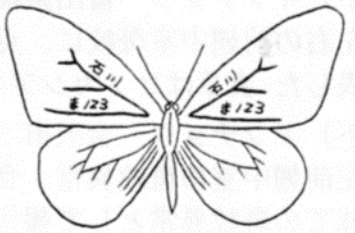
四方へ山稜を伸ばす能登半島最高峰の宝達山には、これまた四方八方から林道が伸びている。ピークまで上がるには、押水町東間から入ると、三角点まで全線舗装で、楽々と行ける。他の道を選ぶと、大変なデコボコ道に悩まされるであろう。

ここで秋季に多数のアサギマダラが見られると知ったのは２年前、たまたまオオセンチコガネを狙ってピークに来た時、たくさんの個体を目撃した。数日後に訪れた時には、１頭もいなかった。これは面白いと、1987年はこまめに足を運んだ。すると９月上旬に現れ、中旬にピークとなり、下旬にはいなくなることがわかった。1988年の結果も、似たようなものだった。

宝達山は能登の最高峰とは前にも書いたが、それがゆえにパラボラアンテナが林立している。防衛庁、建設省、海上保安庁、ＮＨＫ、ＮＴＴ等と狭いピークにひしめきあっている。アサギマダラが良く見られるのは、防衛庁横のブナ林と、ＮＨＫ裏の雑木林。ブナ林は純林で押水町指定の天然記念物、約400㎡の林床には背の低いササが茂っている。ここで多く見られるのはピークの前半、谷から吹き上げられてくるのか、同じ方向から飛んでくる。そのまま飛び去るものもいれば、ブナ林を旋回するものもいる。吹き上げが終わると、縄張り行動の数頭しか見られない。ＮＨＫ裏の雑木林はブナ林の反対側にあり、ちょっとした谷になっていて風が通らない。そのためかヤブカがやたら多く、服の上からでも平気で刺してくる。アサギマダラもここをねぐらにしているようで、朝夕は枝先に止まっているものが目につく。この林の中には何本ものコシアブラの高木があり、たくさんのアサギマダラが吸蜜している。しかし花期が短いのか、行くたびに集まる木が違っている。ここでは、３～４頭の追飛も良く見られ、交尾も一度観察している。宝達山で一番賑やかしいのは、この林だろうと思われる。

しかし９月も下旬となると、その数はめっきり減り、そのうち１頭もいなくなる。いったい何処へ行くのかと、1987年は90頭程にマークしたが、再捕獲の知らせは無い。さればと1988年は200頭程にマークし、淡い期待を抱きながら、近くの山へ登ってみたが、アサギマダラそのものも見つからなかった。

９月に入るとめぼしい蝶は、姿を消してしまう。採卵を始めるには早すぎる。この時期、何をしたらよいのか、また何かに転ぼうかと悩んでいる蝶屋諸君、一緒にアサギマダラの調査をしませんか。いままで退屈だった９月が忙しくなりなすよ。とっても楽しい忙しさに。



《まつい まさと　〒920-01 金沢市大場町東８７１－１５》

１９８８年 Luehdorfia 採集個体から

勝 海 雅 夫

1988年は各地でギフチョウ属の異常型を得たので報告する。

右上）ヒメギフチョウ
長野県北安曇郡小谷村
1988年５月１日採集

左前翅の斑紋異常。原因としては、自然下における蛹化時の前翅圧迫によるものと推測する。よく飼育の際、発生する事がある。

左上）ヒメギフチョウ
長野県北安曇郡小谷村
1988年５月１日採集

左後翅裏面の尾状突起上部に鱗粉転移が見られる。また、若干の翅形隆起も見られ興味深い。

右中）ギフチョウ
岐阜県吉城郡大多和峠
1988年５月27日採集

左後翅燈色班の連結。この産地はミヤマアオイを食し、長野県白馬村産と同食草である。林道沿いに10～20個体程を観察することができた。また、前翅中室の○型斑紋については、今後調査を予定している。

左中）ギフチョウ　富山県黒部市宮野山公園　1988年４月23日採集

左前翅の斑紋異常。クロヒメカンアオイを食草としている。新潟県糸魚川市小滝産との産地間比較など、興味深い。また、１日20個体以上は観察できる。４月23日は時期おくれであった様に思われる。

右下）ギフチョウ　富山県婦負郡八尾町　1988年４月17日採集

左右の前翅中室斑紋に、点状斑紋発色異常。それ程の個体ではないが、一応発表した。食草はヒメカンアオイ。八尾町方面では、４月中旬が発生終期らしい。

左下）ギフチョウ　金沢市二俣　1988年４月16日採集

左前翅中室の斑紋異常。食草はヒメカンアオイ。(右上)の個体とは異なった意味での斑紋異常として報告しておく。

《かつみ まさお　〒921 金沢市玉鉾町甲５４》

カナディアン・ロッキー　その2

野中　勝

1988年6月21日　シアトル空港。午後2時過ぎ。手荷物受取所で、荷物を運んでくるはずの機械を前に僕は疲れ果てていた。問題はこの機械。少し動いたと思ったら、たくさんの荷物を乗せたまま止まってしまい、もう1時間以上も動かないのである。早く採集地へと気ばかり焦るが、どうしようもなく、いつしか忙しかったこの1週間の事を思いだす…。2年間のアメリカ生活で溜ったガラクタの中から、必要なものを選り分けてダンボール箱に詰め、日本に発送。この中にはアメリカで展翅した蝶の標本箱も6箱含まれており、パッキングには細心の注意を払った。その間にも、家具、車の買い手捜し、運搬等があり、昨夜は空っぽになったアパートの床に寝て、今朝はレンタカーで空港へ。空港では予約超過のトラブルがあり、さんざん待たれた挙げ句、やっと案内された席は家族4人がバラバラ。それでも、積み残された人もいるので文句も言えない。安売り切符の常で、セント・ルイスからシアトルに行くのに、ミネアポリスで乗り換えさせられたが、またまた予約超過の一家離散。どうにかシアトルにたどり着いた時には、本当にやれやれという気分であった。そこへこのトラブルで心身共に疲れ果ててしまった。それでもいかに非能率なアメリカ人といえども、約2時間後にはこの機械の修理を完了し、我々は手荷物を受け取り、迎えの車で予約しておいたレンタカー会社へ向かう。用意されていた車は、シボレーのコルシカ。コロナ、ブルーバードクラスの大きさで、これが18日間、走行制限なしで約600ドル。これに保険などがついて約900ドル、およそ12万円。やや高く思えるかもしれないが、ハイウェーがただ、ガソリンがただ同然なので、これが18日間の足代のほぼ全てである。車はわずか500キロ位しか走っていないピカピカの新車。滞米中、シボレーには良い思いでの無かった僕は非常に心配したが、これが意外に車高が高く力もあって、悪路の山道ではなかなか頑張ってくれた。結局レンタカー屋を出発できたのは4時すぎ。ここからシアトルのダウンタウンを北へ縦断するのだが、夕方のラッシュに巻き込まれてノロノロ運転。約2時間走ってメリビルという所で夕食の為にハイウェーを下りたら、もう運転するのがおっくうになり、そのままモーテルに泊まってしまう。予定では1時シアトル発、約3時間飛ばして国境を越え、教えてもらった Parnassius clodius のポイントで夕方少々採集するはずであったが全てはパー。明日にかける事になる。

採集品[1]　なし

---

[1] その日の採集した蝶の種名を示す。同定は Scott(1986)によった。ただし Colias は未だに同定できていないので(大部分は C.alexandraとおもわれるが)除いてある。

6月22日　目を覚ますと雨。困った。色々な情報を統合すると、今回の旅行の主目的の一つであるウスバキチョウの最盛期は今。また、ここから最も近いウスバキの産地であるピンクマウンテンへは、約1700km。まる2日の行程。従って一刻も早くそちらへ向かいたいところである。問題は P. clodius 。これまた今回の主目的の一つで、昨年ワイオミングで採集しそこなったこの種は、B.C.では南部及び海岸線にのみ分布し、しかも発生期は既に過ぎていると思われる。従ってB.C.をグルっと回って帰ってくる予定の2週間後ではボロになってしまうことが予想される。何としても行きがけに採集しておかなければならないのだ。シアトル空港のトラブルで昨日を棒に振った以上、チャンスは今日だけ。それが雨なんて…。泣きたい気分であった。しかし、ここからカナダの蝶屋さんに教わった P.clodius のポイントまでは約2時間かかるので、その間に雨が止む奇跡を祈って、気を取り直して雨の中を出発することにする。途中のアメリカ～カナダ間の国境の通過はパスポートをチェックするだけで極めて簡単。国境から1時間程走って、ホープというやや大きな町で銀行を見つけ、USドルをカナダドルに交換。ついでに早めに昼食にと、レストランに入ってハンバーガーを食べていると、まさに奇跡か雨が止み、あまつさえ厚い雲の間から太陽が顔を覗かせる。そうなると昼食もそこそこに、すぐ近くのスカギット渓谷の clodius ポイントへ向かう。ポイントは、極めて詳しく「ハイウェーから林道に曲がって、最初の橋を渡ってから3kmの範囲が発生地」と指定されていたので簡単に分かったものの、谷間は厚い雲におおわれていて蝶の姿は無い。しかし、この渓谷は非常に気持の良い所だったので、車を止めブラブラ散歩しながら、道路脇のシシウド様の花から井村氏用のハナカミキリなどを捜してみる。しばらくすると薄陽がさし、トラフアゲハが出現。とにかく、この旅行初の蝶だと追いかけていると、雲が切れたのか突然日差しが強くなり、するとこれまで何もいなかった道路脇の小さな草地にどこからともなくパルが出現し、数頭が意外にすばやく草の上を飛び交う。ここにはアザミが多く、チクチクしたが文句も言ってられず、飛び込んで3頭採集。ここでまたもや陽がかげり、同時に蝶は全て姿を消してしまう。パルはもちろん P.clodius、いずれも♂でやや汚損している。空を見上げると雲は厚く、切れ間はほとんど見えない。たまにポカっと青空がのぞいて、雲の流れの方向から、いずれ切れ間が太陽の所に行くだろうとの期待を持たせるが、突然あらぬ方向に流れる雲が出現して、せっかくの切れ間を消してしまったりする。まさかボロ♂3頭だけで引き下がる気にもなれず、可能性がある限りいつまでも粘ることにして、カミキリの続きを捜すことにする。しかし、曇天ではハナカミキリも少ないのか、いかにも普通種面をしたものが数種採れるだけで、あとは草をたたいてみても虫一匹飛び出さない。1時間もたっただろうか。やや大きめの青空が出現し、どうやら太陽にかかりそうになる。充と2人で臨戦体制をとり、陽が差すと同時に採集を開始する。P.clodius が出現する草地は林道沿いに点在し、歩いて

行くと数は多くないもののポツポツ飛び出し、黒っぽく見える♀も含めて、約30分間続いたこの晴れ間に20頭以上をネットインすることができ一安心する。雌雄の差は、P.poebus ほど顕著ではないが、それでも♀は透明感がより強く美しい。好天時に飛来し、陽がかげったため草に止まったまま動かなくなっている個体の静止場所を女房が教えてくれたので、近づいてみると新鮮な未交尾♀が草に止まっている。手で羽に触れても逃げないので、思う存分接写した後に採集する。また、本種の食草はコマクサと同じ Dicentra 属ということだったので、少し捜してみたが、発見できなかった。雲はまたまた厚く、次の晴れ間も当分期待できそうにないので、心を残しつつも採集は切り上げ、以後400km北のウイリアムス・レークまでひたすら車を飛ばす。

採集品　Papilio glaucus、Papilio eurymedon、Parnassius clodius

6月23日。本日は、今旅行中唯一の予約をしてあるピンクマウンテン・ロッジまで800kmを走行しなければならない日。従って採集する暇は全くないのに、皮肉にも快晴。ハイウェーはアメリカに比べるとやや貧弱な感じがするが、車は更に少ないのでビュンビュン飛ばす。ネズミ取りだの、覆面パトカーだのはとても考えられず、時々「スピード違反は飛行機で監視しています」という看板が立っている。本当かどうかは知らないが、この広大な光景の中にいると何となく納得してしまう。途中、チュトウィンドの付近で約10分間だけ採集。キアゲハに良くにた Papilio zelicaon、トラフアゲハなどをネットに入れる。フォート・セント・ジョンの付近からいよいよアラスカハイウェー[2)]に入り、2時間弱走ってピンクマウンテンの村に着く。2年連続の『月刊むし』のウスバキツアーで有名になったピンクマウンテンの名は御存知の方も多いと思うが、この名は山と村の両方に使われており、当然ながらウスバキは山の方に飛んでおり、人間が宿泊するのは村の方である。村と言ってもハイウェー沿いに目に付くのは、レストラン兼モーテルが2軒と、純粋のレストランが1軒のみ。モーテルの室にはテレビもなく、ほとんど山小屋といった方が良く、この分だとアラスカハイウェーを更に進むと、遂には電気も無くなるのではないかと不安になる。結果的にはこれはとりこし苦労だった様で、以後アラスカに近づくにつれて再び開けてくる感じで、どうやらピンクマウンテンの周辺が最も田舎である様だ。夕食後、レストランのレジでピンクマウンテン山への道を尋ねようとすると、近くにいた客の一人がオレが教えてやると親切にも地図を書いてくれる。道が非常に悪いと聞いていたので、普通の乗用車でも行けるかどうか心配であったが、それを聞くとわざわざ外に出て車高をチェックし、これなら

---

2) 太平洋戦争時に完成した、B.C.のドーソン・クリークとアラスカのフェアバンクスを結ぶ道路。一部路面がひどく、また宿泊、給油施設が少ないため、走行するにはそれなりの準備が必要である。

問題ないと保証してくれる。あまつさえ、ピンクマウンテン山の近くにある自分の牧場を地図に書き込み、もし何か困った事があったらここに来いと教えてくれる。どこの国でも田舎の人は親切な様である。さあ、あとは明日晴れることを祈るだけである。

採集品　Papilio zelicaon、P.glaucus、Euchloe hyantis
Pieris napi(エゾスジグロチョウ)、Plebejus icarioides

６月24日　晴。今日こそバキをと山を目指す。途中、これまでに入ってきた色々な情報が頭に浮かんでくる。最も楽観的なのが、1987年９月号の『月刊むし』に載った、時期さえ良ければ(今は良いはずである)１日100頭はかたいという話。逆に最も悲観的なのは、カナダの蝶屋の１人の手紙にあった、近年乱獲のため減っており、今でも採れるかどうか分からないというもの。少なくとも1987年の月刊むしツアーで採集されているのだから絶滅していない事だけは確かだが、余りにも差がありすぎる両極端の情報のどっちがより真実に近いのかと、期待と不安が交互に胸をよぎる。頂上への道は予想よりずっと良く、言ってみれば白山の釈迦林道程度。わずか1300m 足らずでも、頂上付近は森林限界を出たお花畑になっており、大変気持が良い。しかし、独立峰に近く、カナダの山としてはやや規模が小さいのが少し物足りない。山頂には小屋があり、道は更に続いているので、少し下って行くとネットを持った人がおり、様子を聞く為に車を止める。聞けば頂上の小屋で、奥さんと２人、火事の見張りをしているとのこと。「ネットは昨年訪れた日本人の１人が、パルナシウス採集を依頼して送ってきたものだが、今日はパルナシウスの姿はみていない。昨日採集に来た人はたくさん採っていた。」「たくさんて何匹？」「黄色のパル４匹と白いパル２匹。」「ここにはパルは２種いるのか？」「いや♂と♀だ。」何年にも渡って、夏の間じゅう小屋に留まっている人のたくさんが６匹であった事から、この山で何十匹ものバキを採集することはできないことを悟る。小屋でサインをして行けというので寄ってみると、360度ガラス張りになっており、煙が見えるとその方向を報告し、他の所からも同様に見張っており、２本の直線の交点として火事の場所を決定すると説明してくれる。その他、この山は好天でもいつも強風が吹いていること、今日は我々の他にもパルナシウスの採集者と思われる２台の車が上がってきていること、また６月25日からは約10人の日本人が１週間の予定でウスバキ採集に来ることなどを教えてくれる。ストーブを炊いている小屋はポカポカして心地が良かったが、いつまでもそうしている訳にもいかず、外に出る。改めて寒さと強風に驚かされる。すぐに Oeneis が飛んでいるのが目に入ったので採集する。どうも昨年コロラドでも採集した O.melissa (ダイセツタカネヒカゲ)の様である。車に乗って良さそうな場所を捜しながら先ほどの道を戻って行くと、１台の車が止まっており、近くの斜面を歩き回っている人がいるので声をかけてみる。何と、ウスバキ２♀をこの斜

面で採集したという。そうと聞いてはのんびりもしていられず、強風による寒さの為、家族は車の中に残してヤッケを着て斜面を歩き回る。陽が当っているにもかかわらず、強風で熱がどんどん奪われていく感じである。時々 Oeneis、Boloria が飛び出すだけで大型の蝶の姿はない。と、そこへ黄色の大型の蝶が出現。一瞬緊張したが、採集してみると Papilio machaon、早い話しがキアゲハであった。その後、何度か場所を変え、お花畑をあっちこっちと午後まで歩き回ったが、バキは目撃だにできず、再び会った先程の採集者も追加できないという。この付近のお花畑は非常に美しいが、強風に打たれていると異常に疲れるし、何よりも家族が車にカンズメになったままで気がひけるので、ウスバキは明日に期待して、早めに切り上げて下におりて採集することにする。山を下りながら車がカーブにかかると、何やら前方に黒い大きな塊が見えて、あわててブレーキを踏む。何とそれは３匹の子供を連れたクマ(ブラック・ベアー)で、すばやく林の中に飛び込んでいった。恐いのでなるべく車を走らせ、充分に離れた所で少々採集。山の上では見られなかった Oeneis jutta、Colias などが採集できた。

採集品　Oeneis melissa(ダイセツタカネヒカゲ)、O.jutta、O.polixenes、Papilio machaon、Boloria polaris、Plebejus icarioides

６月25日。目を覚ますと曇り。しかしとにかく山を目指す。車が頂上に近づいた頃に陽が差し、あまつさえ風が弱いのか、昨日は山上では姿を見せなかった Colias が数頭目に入ってくる。頂上付近で車を止める場所を捜しながらゆっくり走っていると、何と車の前を黄色のパルが横切って近くのお花畑へと入って行く。車を止め、「ウスバキだ ！」と叫びながら、ネットも持たずにかけだしてみると、道のすぐ脇のお花畑を低く、フワフワしている。あわてて車に戻り、女房がトランクから出してくれたネットをひったくる様にしてとってかえすが姿はない。応援に駆け付けた充と２人でお花畑に踏み込むと、すぐ足元から飛び立ったのはまぎれもなくウスバキの♂。一度、二度と空振りしたものの相手の動きは意外に鈍く、射程内に留まっており、三度目にはやや落ち着きを取り戻してネットイン。胸を圧して、家族全員が集合してネットから取り出してみれば、新鮮な黄色もまばゆい♂である。「よし、あと２～３頭」と思ったとたんに雲。そしてこの曇りは、人の期待をあざわらうが如く、１時間以上続き、その間我々は車の中でひたすら待つ。やがて陽は再び差したが、今度は昨日同様の強風となってしまう。その後、晴れたり曇ったりが１日中続き、夕方まで粘ったものの、遂にウスバキは追加できなかった。昨日いた２人の採集者のうち話をしなかった方の１人が今日も来ていたので、夕方話してみると昨日が２♂１♀、今日が１♂とのこと。この人は今年で４回目で、８年前には４日で80頭余り採れたが、最近は乱獲がたたって減ってしまったと言っていた。ウスバキ以外の蝶はこの日は比較的たくさん採集でき、Oeneis は日本に帰って

から valva を調べることによって３種が同定できた。また、Boloriaは昨日との同種に加えて、アサヒヒョウモンが採集できた。また、ウスバキの食草とされる Corydalis 属の植物は、山のふもとに黄色の花をつけ、大きな株になる種が、山の上に『月刊むし210号』に矢崎康幸氏によって Corydalis panciflora と発表されたピンクの花をつける貧弱な種が認められた。ウスバキは山の上でしか採れないということなので、矢崎氏同様後者が食草となっている可能性が高いと考えた。１♂とはいえ、とにかくウスバキが採集できたことに満足して宿に戻ると、宿の主人が、明日から１週間日本人が10人来るので、明日の出発予定を延期して会っていったらどうかと盛んにすすめる。そこで、もし明日好天だったら、もう１度ウスバキに挑戦して、ここでもう１泊するかと考える。

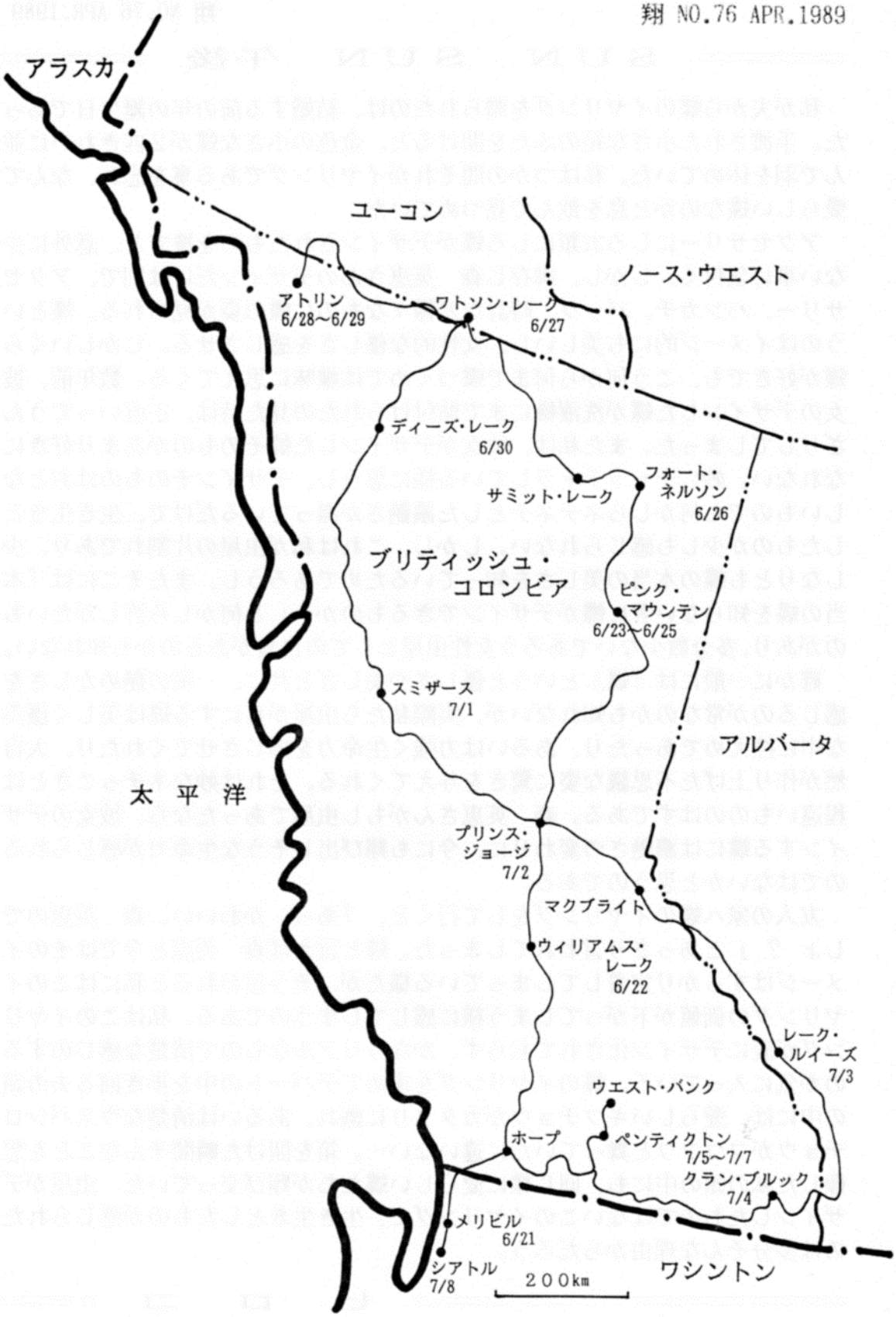
(つづく)

採集品　Parnassius eversmanni(ウスバキチョウ)、
Oeneis melissa(ダイセツタカネヒカゲ)、O.polixenes、O.bore、
Boloria freija(アサヒヒョウモン)、B.polaris

ブリティッシュ・コロンビアの蝶（１）

左列上	Parnassius clodius	♂	1988年６月22日	ホープ付近
〃 下	〃	♀	〃	〃
中央上	P.eversmanni(ｳｽﾊﾞｷﾁｮｳ)	♂	1988年６月25日	ピンクマウンテン
〃	Oeneis jutta	♀	1988年６月24日	〃
右列上	O.polixenes	♂	1988年６月24日	〃
〃 中	O.bore	♂	1988年６月24日	〃
〃 下	O.melissa(ﾀﾞｲｾﾂﾀｶﾈﾋｶｹﾞ)	♂	1988年６月24日	〃

《のなか まさる　〒920 金沢市涌波町２－７－２０》


アラスカ
ユーコン
ノース・ウエスト
アトリン
6/28〜6/29
ワトソン・レーク
6/27
ディーズ・レーク
6/30
サミット・レーク
フォート・
ネルソン
6/26
ブリティッシュ・
コロンビア
ピンク・
マウンテン
6/23〜6/25
スミザース
7/1
アルバータ
太 平 洋
プリンス・
ジョージ
7/2
マクブライト
ウィリアムス・
レーク
6/22
レーク・
ルイーズ
7/3
ウエスト・バンク
ホープ
ペンティクトン
7/5〜7/7
クラン・ブルック
7/4
メリビル
6/21
シアトル
7/8
200km
ワシントン

SUN SUN 午後

私が夫から蝶のイヤリングを贈られたのは、結婚する前の年の誕生日であった。手渡された小さな箱のふたを開けると、金色の小さな蝶が2匹きれいに並んで羽を休めていた。私はつかの間それがイヤリングである事を忘れ、なんて愛らしい蝶なのかと息を飲んで見つめていた。

アクセサリーにしろ衣類にしろ蝶がデザインされたものを捜すと、意外に少ない事に気付く。しかし、御存じ森　英恵さんのデザインだけは別で、アクセサリー、ハンカチ、バッグ、時計など様々なものに蝶の姿が見られる。蝶というのはイメージ的にも美しいし、女性的な優しさを感じさせる。しかしいくら蝶が好きでも、こう何から何まで蝶づくめでは嫌味に思えてくる。数年前、彼女のデザインした蝶が洗濯機にまで貼付けられたの見た時は、正直いってうんざりしてしまった。また私は、彼女がデザインした蝶そのものがあまり好きになれない。妙にチャラチャラしている様に思うし、デザインそのものはおとなしいものでも何かしらネチネチとした濃艶さが漂っているだけで、生き生きとしたものが少しも感じられない。しかし、これは私が虫屋の片割れであり、少しなりとも蝶の本当の美しさを知っているためであろうし、またそこには「本当の蝶を知らない者に蝶がデザインできるものか…」と何かしら許しがたいものがあり、多分数少ないであろう女性虫屋としての自負があるのかも知れない。

確かに一般には『蝶』というと優しさや美しさと共に、一種の艶めかしさを感じるのが常なのかも知れないが、実際私たち虫屋が目にする蝶は美しく優美な中に控えめであったり、あるいは力強く生命力を感じさせてくれたり、大自然が作り上げた不思議な姿に驚きを与えてくれる。それは妙なネチっこさとは程遠いもののはずである。森　英恵さんがもし虫屋であったなら、彼女のデザインする蝶には濃艶さの変わりに、今にも翔び出しそうな生命力が感じられるのではないかと思うのである。

友人の家へ蝶のイヤリングをして行くと、「あっ、かわいい。森　英恵のでしょ？」とあっさり言われてしまった。蝶と言えば森　英恵と今ではそのイメージはすっかり定着してしまっている様だが、そう言われると私にはこのイヤリングの価値が下がってしまう様に感じてしまうのである。私はこのイヤリングが変にデザイン化されておらず、かなりリアルなもので清楚な感じのするのが気に入っている。蝶のイヤリングを求めてデパートの中を歩き回る夫の頭の中には、愛らしいギフチョウがカタクリに戯れ、あるいは清楚なウスバシロチョウがフワフワと舞っていたに違いない…。箱を開けた瞬間そんなことを想像した私の頭の中にも、同じ様に愛らしい蝶たちが翔び交っていた。虫屋がデザインしたものではないこのイヤリングに、生き生きとしたものが感じられたのは多分そんな理由からだろう。

ヒ　ロ　コ

1989年 私の抱負

井　村	能登島で必ずコブを採る。また『石川県のカミキリ』の完結を目指してガンバル。
野　中	オオオサムシとヤコンオサムシの分布調査をする(接点を探る)。また、世界のダマスター、カトカラ、パルナシウスを体力、金力を使わずに集めたい。御協力を期待します。
中　西	今少し力(金)を蓄えて世界へ乗り出す。差し当っては台湾。いろいろ誘いがあり、いろいろ手を出す私ですが、後1年は動かない。
田　辺	高い機器(カメラ等)を、金額相当に使いこなす。メカに強くなるってことかな。
指　田	今年は仕事をガンバルと言いたいが何をして良いのやら、今のところは未定。でも何かやりたい。
小　幡	翔の表紙(羽化シリーズ)を頑張って続けたい。できれば蝶以外の羽化(脱皮)も載せたい。
松　田	夏、再び八重山へ行きたい。更には母蝶から採卵し、八重山の蝶を飼育したい。
中　田	今度めでたく4年に成るので暇な研究室を選び、夏休みにアメリカの友人(女)の所へ遊びに行く。
近　藤	カンアオイの葉を食べるシャクガの生活史を調べたい。また、カンアオイを受粉するハエも引き続き調べる。
松　井	またまたギフチョウの初見記録にいどみたい。能登のオオムラサキも調べたいし、宝達山のようなアサギマダラのたくさん集まる所も捜したい。
澤　田	スキーで地形を把握し、夏にポイントを攻めたい。さて、その種は何か？　ないしょだよ。今シーズンは既に6回通った。

短　報　17

ギフチョウ

1989年３月14日	小松市鵜川	１頭目撃	松井泰子
1989年３月15日	金沢市平栗	３頭目撃	松井正人
1989年３月16日	辰口町金剛寺	１頭目撃	松井正人
1989年３月19日	小松市大野	多数目撃	松田俊郎
1989年３月24日	金沢市二俣	１頭目撃	出口秋一・他
1989年３月26日	金沢市窪	８♂	嵯峨井淳郎
1989年３月26日	金沢市山科	１♂	指田春喜
1989年３月26日	辰口町灯台笹	３頭目撃	松田俊郎
1989年３月26日	鶴来町中島	１頭目撃	松井正人

百万石蝶談会
コマーシャル

会　　長：井村正行
会　　員：一般会員（会誌は手渡し）　２７人
　　郵送会員（会誌は郵送）　１７人
会　　費：２,０００円／年
　　ただし郵送会員は郵送費５００円を加算する。
会計年度：１月１日～１２月３１日。
例　　会：原則として偶数月の第１金曜日とし、年６回。
会　　誌：例会日に発行し、年６冊。特集号は随時発行。
会誌の謹呈先：ニューサイエンス社
　　月刊むし社
　　蝶研出版
会誌の交換先：津軽昆虫同好会　　松本むしの会
　　越佐昆虫同好会　　飛騨むしの会
　　グループ多摩虫　　福井むしの会
　　静岡昆虫同好会　　但馬むしの会
　　岐阜昆虫同好会　　山陰むしの会
　　阿南蝶類同好会　　三重だんごむしの会
　　宇和島昆虫同好会　　ならむしの会
　　大阪のｱｻｷﾏﾀﾞﾗを調べる会

会員の動き・しゃばの動き

✚小幡氏、羽化写真を撮らんと色々な飼育に挑戦するらしく、飼育材料ならなんでも分けて欲しいらしい。また、機会があれば採卵、採幼にも誘ってほしいとか。

✚1月21日松井氏、宝達山ピークで採卵。メスアカ狙いだったと聞くが、獲物はアイノとエゾのみ。雪は吹溜りに若干見られただけとか。

✚澤田氏、なぜか雪のない冬にスキーに凝っている。開店休業の県内スキー場を尻目に、富山や長野へ。

✚白山に熱い眼差しが注がれている。未確認情報によると、白峰村市の瀬、尾口村目附谷でゴマシジミが採れているらしい。ここのところ、白山方面には県外勢が大量に流れ込んでいる。

✚マレーシア・カレーの店『ラササヤン』、ここで田辺氏が月変りで写真を展示している。初のメニューはジョウザン、アサギマダラ等で、スライド大会でも紹介された作品。今後の作品は不明。月変りだから油断してると、見逃しちゃうぞ。

✚木曜社をねぐらに東南アジアをとび歩き、ふらりと金沢へやってくる井沢氏とは？　TSU・I・SO 584号(1989.2.2)は井沢氏特集。これを読むと氏が見えてくるよ。

✚あるときはお抱え運転手、またあるときは展翅人として大活躍している指田研究室の院生は、蝶採りも展翅もたいそう上手。ところが、この春卒業してしまうらしく、先生は大変残念がっている。

✚勝海氏、能登のコムラサキに熱い思いを抱いているが、最近はいずこもガードが固く、どこからモーションをかけようか、思案にくれている。

✚金平氏、目撃される。ここ2年間全く記録のなかった金平永二氏が、この2月に、金大附属病院で野中氏により目撃された。発生地は不明で、暖冬による偶産かも知れない。

✚3月5日井沢氏、大阪のインセクトフェアーの帰りに金沢へ。今度は3月下旬から2ヵ月程バリ島らしい。

✚3月5日野中氏、ゼフのフ化にエサが間にあわず、右往左往。サクラは何とかそろったが、ブナの芽はまだ固く、頼みのナラガシワも使いものにならない。飼育地獄はまだ始まったばかり。

✚3月12日田中氏、「モンシロチョウも飛び出したし、庭のコムラサキも動きだして、陽気は上々。この分だとギフもそろそろ飛んでいるかな」と、1人つぶやく。

✚3月12日松井氏、1番ギフの調査。家族サービスも兼ねて辰口あたりへ出かけたが、まだ飛んでなかった。

✚3月12日富山でギフチョウ発生。大野　豊氏によって大沢野町で5頭確認されたのをはじめ、数箇所で確認された。

✚《《 ついに1番ギフを発見 》》松井夫人ことヒロコさん、小松市で1頭を目撃。ここのところ、封じていたのか封じられていたのか、動きが見られなかったスーパーギャルだが、これは復活の兆しか？

✚3月16日松井氏、平日だというのに、小松、辰口辺りでギフの調査。数箇所回って、1頭目撃しただけ。

✚3月16日までNHKギャラリーで田辺氏の個展が開かれた。虫を知らない連れは、スジボソヤマキが大層気に入り、こちらはベニシジミ、ウラナミシジミに惚れ混んだ。

✚3月19日松田氏、小松市内でギフチョウ多数を確認。天気は余り芳しくなかったものの、雲間からこぼれる日差しに誘われた舞姫達をしっかりビデオに納めた。

✚3月19日松井、野中、指田の3氏、天候もすぐれないのでギフをあきらめ、山中町でヒサマツの調査。ところがウラジロは1本登っただけで、なぜかミスジチョウを持っていた。

✚石川県の蝶のデーターベースを作成中です。現在6000件の検索が可能。未登録のデータは松井氏まで。

✚白川村平瀬でクロヒカゲモドキが採れた。岐阜昆同の宮野昭彦氏によるものだが、氏は三方崩山でキマダラモドキも採集している。この2種県内でも採れそうな気がするなあ。

例会の記録

2月3日午後8時から、城南管工2Fにて開催。新年初の例会は、恒例の『私の抱負』で始まった。

持ち込み標本は、世界のカトカラ(野中)、僕のお気に入り標本(野中)、マレーの甲虫(指田)で、…カンアオイ(近藤)や対馬のラン(中西)も紛れ込んだ。また今回はオサムシグループから、能登のオオオサ、加賀のヤコンの捜索依頼があり、セアカに至っては、ピンクマウンテンのウスバキという賞品まで付けられた。

参加者は井村、小幡、田辺、指田、野中、松井、近藤、澤田、中田、松田、中西(2人)、横山(TEL参加)。

目　次

指田春喜：金沢市郊外のアゲハチョウ類の終息日について ……1
松井正人：宝達山のアサギマダラ ……2
勝海雅夫：1988年 Luehdorfia 採集個体から ……3
野中　勝：カナディアン・ロッキー　その2 ……4
ヒロコ：SUN　SUN　午後 ……11
：1989年　私の抱負 ……12
編集部：会員の動き・しゃばの動き ……14
編集部：例会の記録 ……15

とぶ　NO.76

1989年4月7日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方
百万石蝶談会
☎ 0762-58-2727
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所